

広告

企画・制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会

伝統と革新を併せ持つ新時代の竹工芸師

西原 悟志 愛媛/竹工芸師



スーパーバイザー
小山 薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科に通う。「進め！電波少年」や「料理の鉄人」など、数多くのヒット番組の企画・構成に携わる。執筆活動の他、京都造形芸術大学副学長、地域・企業のアドバイザー、下鴨茶寮主人などを務める。「くまモン」の生みの親でもある。



1月24日、プレゼンテーションにて

本プロジェクトは2016年、プロジェクトのスーパーバイザーに、放送作家として多くのヒットを手がけたくま蒙の生みの親でもある小山薫堂氏を迎え、生駒芳子氏（フアッシュョン・ジャーナリスト/アート・プロデューサー）、下川一哉氏（意匠と匠研究所）らをサポートメンバーに発足。以来、全国の若き匠の挑戦が刻まれたプロダクトは、ふるさと納税の返礼品への指定やロックフェラー家主権のチャリティイベントへの出品、上海での国際的な展示会への出品など、目覚ましい活躍を見せている。

3年目となった今回は、全国47都道府県から計50名の若き匠が選出。昨年夏、レクサスギャラリー高輪で行われたキックオフ・セッションを皮切りに、サポートメンバーが実際に工房を訪ねるエリア・コンサルティングを経て、匠は自身のアイデアを磨き、プロダクトの制作に取り組んだ。

1月24日、東京ミッドタウン日比谷で行われた発表会では、国内外の百貨店・セレクトショップバイヤー・メディア・デザイナー関係者などに向けて自身のプロダクトをプレゼンテーション。世界へ羽ばたく足がかり、ビジネス拡大のきっかけと



商談会の様子

「伝統」を守りながら「新しい」感覚やテクノロジーを吹き込む。地域「の」特性を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。LEXUSが掲げる「二律双生」を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。愛媛県選出の匠、竹工芸師の西原悟志さんのモノづくりへかける思いと完成した作品を紹介する。



プレゼンテーションの様子

「匠」のモノづくりを応援

LEXUS NEW TAKUMI PROJECT（主催：LEXUS）は、日本各地で地域の独自性や技術を生かして、新しいモノづくりの場に挑む「匠」を応援する。

また当日は、2019年の新たな取り組みとして、全国の匠と、世界的クリエイター（コラボレーター）が、新たなプロダクトを制作するコラボレーションプログラムを発表。コラボレーターである隈研吾氏（建築家）、

異素材ミックスの新竹かごバッグ

「ころんと愛らしい竹製のパーティバッグ『てまり』が出来上がった。」

てまりのサイズは直径14センチほど。口紅やハンカチ、貴重品が入るくらいのコンパクトさだ。素材には主に愛媛県産の真竹を使い、昔から道後温泉の湯かごに用いられてきた輪弧編みという伝統の技法で制作。ドーム型のかごを2つ合わせ、かごの内側には袋状になった華やかな柄の布を付け、球体に近い形状のバッグに仕上げた。それぞれのドーム型をつべん部分は、亀甲編みに。そこに四国周辺に多く自生している黒竹を用いてデザインにアクセントをつけ、西原さんらしさを表現している。竹細工という「和」の要素が強くなりがちだが、和洋いずれの装いにも合うよう、30〜40代の女性向けにデザインした。



ひこ取りの様子

職人と講師。「二足のわらじ」で竹工芸師の向上を目指す

西原さんは竹細工教室の講師としても活躍している。職人として仕事を始めた当初から松山市内や近郊で教室運営も手掛け、中高年を中心に受講生が増え続けている。教室では画一的な指導をせず生徒それぞれが作りたいものを作るスタイル。そのため、西原さん自身作ったことのないものや、編み方を試行錯誤する場合も多い。結果、短期間で技量の幅が広がり、ものづくりへの柔軟な姿勢にも繋がっている。

西原さんにとってプロジェクトへの参加は、異素材を使った新しいジャンルの作品を生み出す契機となったただでなく、マーケティングや商品ブランディングを考える一助となった。てまりをさらに改良し、2020年を



エリア・コンサルティング



完成プロダクト「パーティーバッグ『てまり』」

1本1本火であぶり、天日に干す。乾燥させた竹は鋭なたや専用の刃物を使い、「ひこ」と呼ばれる細く薄い繊維になるまで手の感覚だけで均一に削る。ひこがそろったらようやく編みの工程に入る。

竹は丈夫で軽く、美しい網目模様が魅力。竹そのものの素材感を味わってほしいため、西原さんは染めや塗装はあえてしていない。今回のプロジェクトも

ピド感には目を見張るものがある。竹細工の作り方動画やキットの販売など、新しい販売方法にも取り組んでいきたいと笑顔で語る。新しい発想で次々と企画を打ち出す、新時代の竹工芸師の動向から目が離せない。



西原さんの作業風景



西原 悟志
愛媛/竹工芸師

1983年に生まれる。28歳のときに竹工芸師になろうと愛媛の伝統工芸師、倉橋澄夫氏に弟子入りし、竹細工を学ぶ。その後、大分県竹工芸訓練センターに行き1年学び、愛媛に帰ってきて開業する。県内を中心に教室の講師や商品の卸、展示会を行い、クラフトフェアや百貨店の催事で県外にも出張し、活動してきた。作品は次々と油抜きした真竹を主体に部分的に黒竹を用いる作風と、青竹をそのまま使用した青物の2方向で展開している。

LEXUS
NEW
TAKUMI
PROJECT